

【参加者コメント1】（ラウンドテーブル・ミーティングに参加した感想と印象に残ったこと）

Group1	CEO 野口 剛志氏 Tsuyoshi NOGUCHI (Gallagher Re Japan)
奥川 健太 (JA共済連)	協同組合は企業とは異なり、契約商品のつながりだけでなく根幹となる事業（農業・水産業等）からつながりを持っていることがユニークであり、強みであるという言葉は協同組合だからこそできることの一つ大事な部分であり、それを忘れてはいけないのだと再認識しました。 また、今後マネジメントを行う管理職の立場としてどういう姿勢を大切にしているのかという質問に対しカーレースの例えを用いた話でレースで勝つためにはカーブでぎりぎりまでブレーキを踏まないことが勝利に近づくように、人や事業の成長をみる上ではメンバーにカーブでコースアウトするぎりぎりまでやりたいことをさせることに成長の機会があり、マネジメントではブレーキをかけて抑制するのではなく、コースを外れたり事故を起こさないようにフォローすることが大事だと話されていたことが印象に残っています。
小野 美依奈 (JF共水連)	野口代表から保険と共済の一番の違いは共済は制度(商品)のみの結びつきだけではなく、元々の地域規模での関係性を築けていることにある、とのお話をいただきました。また、関係性があるからこそそれぞれ独自性を育てていくことができる、ともお話をされていて、それは共済の強みであり私たちが誇るべき点であると思えました。そのためには加入して下さっている組合員の特性とニーズについて考えることが重要であると考えます。
千葉 ますみ (こくみん共済 coop)	野口氏から、外の環境に目を向けることで、自身の視野が広がり、物事をより深く考えることにつながるのと学びを得ました。日々の業務に忙殺されがちですが、一度立ち止まって見たり、周囲に目を向けることを意識して行動していきたいです。
豊田 真希 (こくみん共済 coop)	「チームでなにかを成し遂げるうえで、役職者と部下の直接的な関係性を越えて、チームとしての関係で意識していることは？」という質問に対して、野口氏から「部下が何事にも挑戦ができる環境を構築する必要がある。部下は『完璧にできない＝失敗』と考えることが多い。部下に寄り添い、一緒に成功体験が得られるような環境づくりを意識している。」というコメントをいただき、リーダーは部下に対して「挑戦を支える安全な環境」を整え、積極的な試みを促すことで、学びと成果を生み出すということを学びました。

Group2	CEO キム キドン氏 Gi-Dong KIM (NH農協生命)
中山 省吾 (JA共済連)	同じ農協系列ということで、事業環境に共通点が多く、非常に参考になるお話が聞けました。海外展開への志向など、考え方も近い部分があり、組織体は異なるものの大変示唆に富む内容でした。
中村 優希 (こくみん共済 coop)	NH農協生命における災害発生時の備えについて質問をした際に、公共交通機関が機能しなくなる事態を想定し、従業員に在宅勤務用PCを配布して自宅から勤務できる体制を整えている一方で、日本と比べて韓国では大規模な地震や台風による被害が少ないことから、企業として水や食料などの備蓄品は特に用意していないとのことでした。このことから、BCPの策定においては、前例踏襲ではなく日本が先行した取り組みをし創り出していくものであると実感することができました。
平野 光汰 (こくみん共済 coop)	キム副社長から組織の存続と顧客ニーズのバランスを持つことが必要であると学びました。 今後、人の仕事がAIにシフトしていくことへの懸念について、「PCが普及した際にもそのようなことが言われていたが、いま我々はここにいる。」という言葉が印象に残りました。AIは手段であり、活かすも殺すも人間次第であることを再認識できました。
若宮 裕美 (こくみん共済coop)	キム副社長より、「顧客の声が羅針盤」という考え方について詳しく伺いました。顧客を深く理解し、その声に寄り添う姿勢は、ビジネスにおいて不可欠であるだけでなく、家族や友人、職場など、あらゆる人間関係においても重要であることを再認識しました。 また、NH農協生命では全部門でDXを推進するとともに、変化に柔軟に対応できる組織や働き方（AX）を重視しており、いずれも単なる業務効率化を目的とするのではなく、職員の働きやすさを支えながら、よりよい価値につなげていくための取り組みであることが強調されていました。こうした取り組みの先には常に顧客が存在しており、デジタル化が進む中であっても「人とのつながり」が基本であるというメッセージが、特に印象に残りました。
小林 実里 (コープ共済連)	AIやデジタル化が進む中で、人はどのような学びを得るべきかという質問に対し、「恐れずに受け入れることが重要だ」というコメントをいただきました。デジタル化はコープ共済連でも取り組んでいる重要な課題であり、デジタルを活用する一方で、「人」にしか生み出せない価値を組合員に提供していくことが大切だと感じました。

Group3	CEO グラハム クラーク 氏 Graham CLARK (Asia Affinity Holdings)
伊谷 美樹 (JA共済連)	「協同組合の価値をより効果的に伝えるにはどのように発信をすべきでしょうか。特に若い世代へ協同組合の意義をどう伝えていくべきだと思いますか」と質問し、「協同組合の価値を若い世代に伝えるには、一方的に意義や概念を説明するのではなく、組織としての具体的な事例や課題を外部に共有することが重要」という言葉が印象に残りました。実際の事例を通じて協同組合としての取り組みや課題を見せることで、より共感を得られるという視点は、広報の立場として大きな示唆をいただきました。 さらに、「ヤングリーダーとして、公の場での発表や意見発信の機会が多いと思うが、失敗を恐れず挑戦すべき」というアドバイスも心に響きました。私は挑戦することが得意ではありませんが、この言葉を受けて、失敗を学びに変えながら一歩踏み出すことの大切さを感じました。
黒田 翔矢 (JA共済連)	今回のSessionではAIやデジタルライゼーションに関するプレゼンが多ありましたが、それについてGraham CEOは、デジタルライゼーションによって利便性を追求することは重要だという前提を置いたうえで「ただし、デジタル化に利便性を感じる者もいれば、そう感じない者もいる。デジタル化すれば便利になるという妄信にとらわれず、我々は協同組合精神を宿す者としてそういった人々もいるということを忘れずにデジタル化に向き合うべきだ」というコメントをいただき、「Leave No One Behind」の精神をいつ何時も忘れてはいけないことを再認識させられました。
東 彩矢香 (こくみん共済 coop)	組合員に寄り添い、ニーズやトレンドに応じて組織が柔軟に変化する重要性を学んだ。また、目標を明確にし共に取り組む姿勢、さらに立場に応じた適切な振る舞いが求められていることを改めて認識した。今後は自身の行動を見直し、リーダーとしてより良い関わりを実践したい。
小泉 まどか (こくみん共済 coop)	グラハムクラーク氏の人生経験もお話いただき、失敗を恐れず挑戦する重要性や、どんなときも正直に誠実であることの大切さを学びました。
渡辺 守 (こくみん共済 coop)	良いチームを作るためには目標を明確にして、一緒に取り組めるように行動することが重要だと学びました。また、リーダーとして振る舞うことも大切だと分かったため、自分の立ち振る舞いを見直し、チームリーダーとしてメンバーと関わっていきたくと思います。
藤崎 七海 (コープ共済連)	朝食セッションでは、チームのモチベーションについて質問させていただき、グラハム・クラーク氏からは「良いコミュニケーションを取ることでおのずとチームのモチベーションは向上する」とコメントをいただきました。英語でのやり取りは難しさもありましたが、同世代の参加者が積極的に質問する姿や、グラハム・クラーク氏が一人ひとりの質問に丁寧に答えてくださる様子がとても印象的でした。 普段の業務では得られない刺激や気づきが多く、今後の自分の行動や考え方にも活かしていきたいと感じました。

Group4	CEO ノエル ラボイ 氏 Noel D.RABOY (CLIMBS Life and General Insurance Cooperative)
岸 広太 (JA共済連)	金融リテラシーが高くない人に対して、金融教育を提供していることをお聞きしました。保障提供等の単一の事業だけではなく、地域のために幅広い価値を提供していることが印象的でした。普段の仕事では自分が関わる業務にのみ集中してしまっていますが、地域のために組織としてどのような価値を提供できるのか考えることが大切だと再認識しました。
渡邊 泰我 (JA共済連)	組織に属する中で、最も後悔したことはあるか質問をしたところ、仕事に一生懸命になりすぎて、時間がなく商品開発に時間をかけることができなかったと伺いました。時間が有限のため、どうしてもできないことが出てくるので、後悔のない選択がどこなのかを判断することの難しさを感じました。 近年、生成AIの活用が進んでいるが、AIを導入することで、サーバーのCPUが激増し、保守費用も増額することなどから費用対効果が得られなくても推進していくべきかを質問しました。AIの活用については、コストがかかっても逃げられることではない（推進していかないと社会に取り残される）ので、会社としても、従業員に積極的な推進を推奨するようにマインドセットする必要があると仰っておりました。 社会の変化の中で、生き残るための判断として、AIとどのように向き合っていくべきかを考えさせられました。
石川 諒 (こくみん共済 coop)	CEOからいただいた「夢や高い目標を持って取り組むことがリーダーになるためには必要」「失敗しても前進あるのみ」「人と交流できる場に身を置くことで、自己成長につながる」などの言葉は、今後自身が職場のリーダーとなるにあたって意識すべき部分について明確にしてくれました。失敗を恐れず、多くの人とコミュニケーションをとれる場に、積極的に身を投じていこうと考えています。
金子 麻美 (こくみん共済 coop)	ノエル・ラボイ氏が熱意を持って回答された内容が自分の中に深く響きました。「この仕事は何につながっているのかを意識する。パッションを持つこと、そしてコストを負って行動すること。努力し続けることが大切。恐れてはいけない。自分はシャイだけど、意識してASKするようにしている。ガッツを持って決断するようにしている。失敗してもNEXT（前進あるのみ）！」リーダーシップの姿勢と意識を学んだセッションでした。
山津 直人 (コープ共済連)	多くの経験をされているCEOが一番大切にしている言葉は？ といったグループ参加者からた質問に「NEXT (MOVE) ⇒失敗しても次、前進あるのみ」と答えられていました。失敗するとそのことを考えてしまいがちですが、その失敗を次に生かすこと、今回の新しい発見ではないですが、これまで言われていたことを再認識する機会となりました。
于 京飛 (Gallagher Re Japan)	協同組合の発展には、協同組合間や外部組織との協力が不可欠であることを学びました。CLIMBSがICMIFの場を活用して商品開発におけるパートナーを見つけてサポートを得た経緯がとても印象的でした。 弊社 Gallagher ReもICMIFとAOAの公式スポンサーとして、再保険等を含むサポートを協同組合に継続的に提供していく重要性を改めて感じました。 また、リーダーとして、チームメンバーに対するケアの重要性も学びました。もしチームメンバーのモチベーションが低下している場合、その原因を確認し、人事部門への紹介や他の適切なサポートを通じて、多方面からのケアを行う必要があるとの学びがありました。 さらに、Noelさんの人生のモットーである「Next」という言葉からも大きな刺激を受けました。現状にとらわれず、「次へ次へ」と突き進んでいく精神がCEOまたリーダーに備えるべきものであることを学びました。

Group5	CEO エメテリア キハノ氏 Emie QUIJANO (ASKI MBA)
八下田 瑞穂 (JA共済連)	地域や現場のニーズはどのようにキャッチしているのかを質問したところ、地域のコーディネーターが直接聞き取りを行い、半年ごとに提案内容を見直していると伺いました。組合員のための仕組みを提供し、組合員のための組織であり続けるという協同組合の本質を体現した姿勢で、実際に組織運営をされている点が非常に印象的でした。 大切にしている価値観を質問したところ、迷わず「誠実さ」だと回答いただきました。リーダーシップや強い力よりも先に誠実さがあり、人間として協同組合という機構を実行している強い意志に感銘を受けました。
渡邊 雄人 (JA共済連)	Emie QUIJANO氏に対して、「CEOとして組織の理念・使命をどのように若手職員に伝えているか」という質問をしたところ、「1時間の朝礼の中で、全職員に対して組織の理念・使命について話をしている。フィリピンは、キリスト教文化が根付いている国であるため、聖書に関連付けながら、自身の経験等をふまえて話をしている。」というコメントをいただきました。組織の理念・使命の浸透にあたっては、継続してトップの言葉で発信していくことが必要だと学びました。
江波戸 悠香 (JF共済連)	英語によるコミュニケーションは容易ではありませんでしたが、参加メンバー全員が伝えようという意識を持って臨み、エメテリア・キハノ氏も私たちの不慣れなスピーキングにも耳を傾けてくださり、一人ひとりに丁寧に回答してくださいました。また、スイス再保険のサポーターのお二人にも手厚いフォローをしていただきました。主体性や積極性など、学ぶことが多く、この場に参加出来たことは非常に貴重な経験となりました。また、質問させていただいたビジネスプランの策定やその伝え方については、ご自身の経験を交えた助言をいただきました。そのお話を通じて、多くの意見に耳を傾け、相手とのディスカッションを重ねて理解を深めることの重要性を改めて認識しました。
秋永 梨紗 (こくみん共済 coop)	協同組合を若年層へ認知拡大するために今の私たちにできることは何かという質問に対して、エメテリア・キハノCEOからはイノベーションしていくこと、メンバー内での教育も必要だというコメントをいただきました。若年層へ伝えていくためには、まずは私たちの世代が次世代に伝えていけるようになっていなければならないと改めて再認識することができました。
稲場 紗友里 (こくみん共済 coop)	Emie QUIJANO氏は「積極的に参加してたくさんの人と関わり、業務に関連する知識を身につけることに対して真摯に取り組むことを意識していた。石をひとつひとつ積み上げるような意識が大切」と話してくださいました。長期的なキャリアも必要ですが、目の前のひとつひとつの経験に向き合う大切さを教えていただきました。
松原 一馬 (こくみん共済 coop)	私自身が、共済推進に携わっていることから、「ASKI MBA」での加入者拡大の取り組みについて質問をさせていただきました。金融教育(保障など)から保障の必要性を伝えているとのコメントをいただき、自身の推進業務において視野を広げるきっかけになりました。また、CEOのこれまでの仕事への向き合い方をうかがい、目の前の仕事に真摯に向き合うことで、自身のスキル向上や第三者からの信頼の構築につながる、といった気づきにつながりました。
平谷 マリア (スイス再保険)	Emie氏から様々なお話を伺いましたが、その中で特に印象に残った言葉は「イノベーション」でした。メンバーの声を聞き、そのニーズを商品やサービスに反映させなければ、組織は持続できないという点を強調されていました。具体的な例として、彼女は現在開発中の高齢メンバー向けの商品について紹介してくれました。また、若手リーダーに求められる姿勢として、プロアクティブにミーティングへ参加し、日々の業務に前向きに取り組むことの重要性についてもお話を頂きました。私自身も、このような積極的な姿勢が組織への貢献に繋がるということを意識しながら、今後の業務に取り組んでいきたいと思っています。

【参加者コメント2】 AOAセミナー、YLPを振り返ってのコメント

No.	氏名（組織名）	AOAセミナー、YLPを振り返ってのコメント
1	伊谷 美樹 (JA共済連)	AOAセミナーに参加し、地域コミュニティの弱体化・気候変動による災害・経済格差（相互扶助が必要な人ほど協同組合組織に入りづらい）等、協同組合組織における課題は世界共通であることを改めて実感しました。そのため、国をまたいだ情報共有や意見交換の重要性を強く感じています。様々な事例や知見を積極的に取り入れることで、より持続可能で魅力的な協同組合の姿を描くことができると考えます。 国際的なネットワークを活用し、協同組合の価値を高めるために、今後も積極的に情報交換を行っていきたいと思いました。
2	奥川 健太 (JA共済連)	今回のセミナー参加を通じて、他の協同組合の方々との交流の機会を得られたのと同時に、組合員へのアプローチや発展が著しいAIの活用、相互扶助の精神に基づく非営利の理念と競合との競争力確保といった様々な問題が協同組合事業にはあると痛感しました。今後、協同組合の職員として働く中で協同組合が組合員のための組織としてその役割を発揮するにはどのようなことが求められているのかについてしっかりと課題意識を持って考え、行動していきたいと思います。
3	岸 広太 (JA共済連)	協同組合の理念は他の国でも共通であることを再認識しました。社会の分断が加速する現代にこそ、誰も取り残さないことが求められ、そのためには協同組合が力を発揮することが重要だと感じました。また、どの団体もAI活用に力を入れていましたが、その中でも協同組合として「人と人との繋がり」は損なわないようにしていることが印象的でした。
4	黒田 翔矢 (JA共済連)	AI、デジタルイゼーション、気候変動やグローバリゼーションによって目まぐるしい変化を遂げつつある世の中ですが、そういったなかでも一つの同じ精神を宿した仲間たちとセミナーを通じて意見交換できたことは非常に有意義なものでした。意見交換するなかでは、共通認識もあれば違う認識や価値観の発見もあり、それぞれの価値観の共有あるいは共存こそが協同組合同士で集まった一つの価値であったのだろうと感じました。
5	中山 省吾 (JA共済連)	「助け合い」を中心とした共済事業の理念は、なんとなく「日本的」だと感じていたが、発展途上国におけるマイクロ・インシュアランスの事例など、海外でこそ協同組合として保障提供する意義が浸透しているのではないかと感じた。組合員との接点が少ない業務であっても協同組合の理念を胸に日々の業務に励んでいきたいです。
6	八下田 瑞穂 (JA共済連)	普段接する機会のない世界各国のCEOの方々および同年代の職員達が、組合員のための一心で様々な取り組みに心を砕いて取り組んでいる様子を知り、自分の取り組みの先にも組合員がつながっていることを実感するとともに、世界中に同じ志を持つ仲間たちがいることを大変心強く感じました。
7	渡邊 泰我 (JA共済連)	アジアの多くの協同組合・保険業界の方々と交流をすることにより、世界における協同組合組織の重要性を認識することができました。 また、セミナーを通じて協同組合の価値を再認識することができました。
8	渡邊 雄人 (JA共済連)	AOAセミナーの各組織の講演を通して、AOAに参加している組織は、国や言語は違ったとしても、「地域・組合員のために」という根柢（こんてい）の考え方は共通だと感じました。 また、YLPでは、「地域・組合員のために」という同じ使命を持った国内外の同世代の仲間たちと出会うことができました。プログラムでは、他国のCEOとの円卓セッションも用意いただき、日常では得られない非常に貴重な経験となりました。 事業環境が激しく変化する中ではありますが、今回の貴重な経験を糧として、「地域・組合員のために」今後もチャレンジし続けたいと思います。
9	江波戸 悠香 (JF共水連)	若手職員をはじめとした人材育成の重要性を多くのトップの方々語っていらっしやったことや、共同の問題意識の共有や継続的で意味のあるネットワークを築くことが大切であるというお話が強く印象に残りました。協力しあえる体制や関係を構築することには難しさもありますが、自組織でまずは自分のできることから実践していきたいと考えています。また、「真心を込めたソリューションは簡単に手に入れることはできず、相手の置かれている環境を理解しないと真のソリューションは提供できない」という言葉も心に響きました。業務において、スピードが求められる中でも、誠意と時間をかけて相手の状況を深く理解することを忘れないようにしたいという思いを新たにしました。
10	小野 美依奈 (JF共水連)	協同組合という組織の成立の根柢には「人々の信頼」があり、また、協同組合が一番大切にしなければいけないものは「そこで生活する人々」であるということはこのセミナーを通じて改めて感じることができました。海外では、主に若い世代に向けての保険リテラシーを学ぶ機会が設けられていることを聞き、どんな人も置いてきぼりにしない情報の発信力が重要であると感じました。また、共同体意識をもつきっかけになると思いますので、まずは私自身が後輩や組合員のためにできることはないか考えていきたいと思いました。

No.	氏名（組織名）	AOAセミナー、YLPを振り返ってのコメント
11	秋永 梨紗 （こくみん共済 coop）	協同組合において、国内でも各組織によって違いがあることや各国でどのような役割を担っているのかわかることができました。各国において同じような課題を抱えている点や協同組合が組合員・地域社会のための組織であることは同じ考えのもとでそれぞれが取り組んでいることを再認識できました。
12	東 彩矢香 （こくみん共済 coop）	各国協同組合のデジタル活用や運営手法など多くの知識を得た中で、特にヤングリーダー育成を戦略的に進める姿勢が印象的だった。また、多様な人材を尊重し、その力を引き出すことが国際共通のリーダー像であると理解した。
13	石川 諒 （こくみん共済 coop）	各セッションにおける各国での取り組み報告の聴講を通じて、改めて協同組合の必要性、存在意義について認識することができました。また、多くの協同組合が他の組織との協力の下で活動しており、自組織のみでは立ち行かない領域においてはパートナーシップが重要となることを理解できました。
14	稲場 紗友里 （こくみん共済 coop）	組織や地域における協同組合の重要性と、人の行動原理（ポジティブさや怠惰さ、モチベーションの根源）を深く考える機会となりました。AI対応の重要性は高まるものの、人と人とのコミュニケーションの価値は依然として高く、「人」を見つめ、寄り添う業界の一員として想像力を持ってキャリアを重ねたいと感じました。
15	金子 麻美 （こくみん共済 coop）	会内外問わず初めてお会いする方との交流は、「ひと」と「自分」を強く意識し、新たな世界に触れる貴重な経験となりました。「『ひと』を意識して行動しているのか？」と問い続けること、そして「ASKすること、決断を恐れない。」姿勢で行動する大切さを自分の中に落とし込むことができました。
16	小泉 まどか （こくみん共済 coop）	国や業種が違っていても協同組合として相互扶助の考え方や社会貢献活動に積極的に取り組んでいる姿勢は共通していることが分かりました。また、スリランカ、フィリピンなどでは若年層への金融リテラシー教育や女性の活躍支援を行っていることも知り、日本との違いも感じることができました。
17	千葉 ますみ （こくみん共済 coop）	AOAセミナーに参加し、協同組合の本質である「相互扶助」の価値を再認識する貴重な機会となりました。組合員の声を尊重する姿勢が、持続可能な組織づくりに不可欠であることを改めて感じています。今後は、この理念を胸に、共済制度の推進に取り組んでいきたいと思えます。
18	豊田 真希 （こくみん共済 coop）	セミナー全体のテーマ「利用者のための組織であり続けるために」に沿って、相互扶助の精神や顧客中心主義の重要性を改めて確認しました。単なる保障の提供にとどまらず、組合員に寄り添い、共に課題解決を目指すことが、組織価値を高める鍵であるという認識は、国際的にも共通していることが確認できました。今後は、協同組合組織として働く個人としての責任を意識し、組合員や自組織の「未来に向けて」主体的に行動していきます。
19	中村 優希 （こくみん共済 coop）	本セミナーの講演を通じて、協同組合や共済団体が各国で果たしている役割や、その社会的な位置づけについて理解を深めることができました。特に、国や地域ごとに異なる制度や取り組みの背景を知ることで、自組織で業務をすることだけではない得られないような視点や観点を得られたと感じています。 また、他の協同組合組織や共済団体の参加者と積極的に交流する機会があり、情報交換や意見交換を通じて新たな視点を得ることができました。今後の協力や連携の可能性を広げる貴重な財産になると考えています。 セミナー終了後も、この場で築いた人とのつながりを大切にし、継続的なコミュニケーションを通じて互いに学び合える関係を構築していきたいと考えています。
20	平野 光汰 （こくみん共済 coop）	国、組織、文化が違ってAOAに集まった人々の根本は同じ助け合い・尊重・持続可能性にあることを認識することができる良い機会となりました。奥ゆかしく遠慮気味なのが日本人の美德だと思われがちですが、国際的な場面では弊害になることが多いと感じました。言葉は通じなくても気持ちや片言の英語で思いは伝わるので率先的に様々なことをやってみようと思えるモチベーションになりました。
21	松原 一馬 （こくみん共済 coop）	今回、AOAセミナー・YLPに参加し、今回参加されていた団体は、活動している地域や事業内容に違いがあるものの、「組合員のために」という根本的な考え方は同じであることを再認識することができました。 また、国内外の協同組合の代表者（スピーカー）による講演を拝聴する機会をいただき、自身のこれまで・これからの活動において再考・再認識する貴重な機会となりました。
22	若宮 裕美 （こくみん共済 coop）	組織を牽引してこられたリーダーの方々の言葉には説得力があり、豊富な経験と広い知見に裏打ちされた、心を動かす強いメッセージを感じました。協同組合の根幹である「相互扶助の精神」についても、改めて理解を深めることができました。 セミナーで繰り返し語られた「レジリエンス」は、単に危機を乗り越えて回復する力にとどまらず、変化に適応しながら成長していく力であり、協同組合に欠かせない重要な概念であると認識しました。自組織にとどまらず、協同組合全体、さらには業界全体が共通の理念を大切にし、変化や予期せぬ出来事乗り越えていくことが、今後の発展に不可欠であると感じました。
23	渡辺 守 （こくみん共済 coop）	協同組合の相互扶助や助け合いなどの価値観は世界共通であることを再認識しました。理念実現に向けて、組合員だけでなく社会とのつながりも大切にし、共済を通じて協同組合の社会的意義を伝えていき、組合員のためになることを追求し続けたいと思えます。

No.	氏名（組織名）	AOAセミナー、YLPを振り返ってのコメント
24	小林 実里 （コープ共済連）	<p>今回セミナーに参加することによって、協同組合の存在意義を強く認識することができました。「組合員のため」のみならず「世の中の問題を解決する。誰一人取りこぼさず救っていく」そんな協同組合の強い思い、協同組合に受け継がれてきたDNAを感じ取ることができました。</p> <p>また、他団体の皆様は、多種多様な部署の方々に参加されていて、自分が知らなかった共済の仕事を知ることができたのは本当に貴重な経験でした。自分が所属している部署や団体だけでなく、国内外の協同組合や企業には、さまざまな仕事や役割があります。その中で「組合員のため」「世の中の問題を解決する」という軸をぶらさず、自分にできることをやっという前向きな気持ちになりました。また、関わる皆さんからたくさんパワーをいただきました！</p>
25	藤崎 七海 （コープ共済連）	<p>AOAセミナー全体を通じて、世界各国の協同組合や保険団体の取り組みや課題を知ることができ、非常に視野が広がりました。団体の形式や国が異なっても、「顧客中心」「人」「デジタル活用」「組織同士のつながり」など、価値観が共通していることを改めて実感しました。また、他団体の方々との交流を通じて、日々の業務だけでは得られない新しい発見や刺激を受けることができました。今回の経験を活かし、今後も積極的に学び続け、組合員の皆さまにより良いサービスを提供できるよう努めていきたいと思ひます。</p>
26	山津 直人 （コープ共済連）	<p>AOAセミナー2025へ参加したことを通じて、日常業務ではできない経験や人との繋がりを得ることができました。</p> <p>既にAIを広く活用している企業、共済・保険の広がりを金融リテラシー向上に繋げている企業、それぞれ強みや日々の取り組みなどに違いはありましたが、根底にあるのは「人」でした。「人のために～をしたい」「人に支えられて」などの考え方を改めて強く意識する機会となりました。</p> <p>また、広く国内外の同世代と交流出来たことは、定型になっていた自分の業務を振り返り、自分の将来像について考える良いきっかけになりました。</p> <p>今回の経験を単発的なものとせず、日々の業務や、周囲の人たちへ還元し、よりよいコープ共済となれるよう力を尽くしていきたいと思ひます。</p> <p>そして、なにより非常に楽しい経験でした。ぜひ、多くの人に参加してほしいと思ひます。ありがとうございます。</p>
27	于 京飛 （Gallagher Re Japan）	<p>AOAセミナーに参加し、協同組合が国・地域を問わず、地域社会や組合員の多様なニーズに応えるための重要な役割を果たしていることを改めて実感しました。特に、気候変動や防災減災等といった現代の課題に対し、共済の仕組みやAI技術の活用が地域社会の回復力を高める上で不可欠であることを学びました。また、協同組合が短期的な利益追求ではなく、地域社会と組合員の福祉に真に注力していることが、株式会社等の他の組織形態と異なる強みであることも再認識しました。</p> <p>さらに、協同組合の相互扶助の精神がGallagher Reの企業文化「Gallagher Way」にも通じるものであることを改めて実感しました。</p>
28	平谷 マリア （スイス再保険）	<p>AOAセミナーへの参加を通じ、各団体が「助けあいの仕組み」として成り立っているのだと改めて実感しました。国や地域によって文化、経済、環境は異なりますが、協同組合・共済が抱える課題（気候変動、自然災害への対応、若手人材の確保など）には多くの共通点があることを学びました。</p> <p>再保険会社は表に出ることの少ない立場ですが、共済を通じて最終的にはメンバーを支えていることを意識しながら、今後の業務に取り組みたいと思ひます。今回得た貴重な経験を生かし、協同組合・共済の発展を少しでも支えられるよう努力していきたいです。</p>